

氷川神社  
社報 第二十号

# 武蔵一宮



1月1日の境内の様子

年頭にあたり

令和四年壬寅（みづね）の年頭にあたり、謹んで聖寿の万歳と御皇室の弥栄、国家の隆昌をお祈り申し上げます。

昨年もコロナウイルスは変異型の名の通り、次々に形を変え世界中で猛威を振りました。我が国でも感染者数が収まってきても変異型の流行とともに再拡大し、都市部を中心に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対策を取る事となりました。その中であつても無観客ではありませんでしたが、一年越しの東京オリンピックが開催され、選手の皆様が精一杯戦う姿は感動と希望をもたらしました。

さて、心配をされた本年の初詣ですが、密集地となる手水舎の使用中止（十六日まで）、窓口の亚克力板設置、職員・助勤者のマスク・手袋着用、各所への消毒液設置等、感染症予防対策を徹底した上で、皆様をお迎えし大過なく過ごす事が出来ております。また御朱印は持参された帳面は預からず、正月特別紙朱印（準備分終了後は紙朱印）のお渡しは新規朱印帳の授与（十日まで）に限らせて頂いた事で行列にはなりませんでした。

昨年の三が日初詣参拝者数は例年の七割減でしたが、本年は三割減という状況でした。ウィズコロナ、アフターコロナという言葉が定着しておりますが、平穏で人と人が親しく交わる事の出来る日常が戻ってくることを待ち遠しいものです。



祭事曆

当社では毎日の日供祭以外にも年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穡と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

十月

- 一日 月次祭
- 九日 抜穂神事
- 十五日 献詠祭(兼題 馬鈴薯)
- 十七日 神嘗奉祝祭
- 二十一日 朔瓶祭

十一月

- 一日 月次祭
- 三日 明治祭
- 十五日 献詠祭(兼題 焚火)
- 二十三日 新嘗祭
- 敬神講社大祭
- 三十日~十二月九日 大湯祭前斎

十二月

- 十日 大湯祭本祭
- 十一日 大湯祭後斎
- 誓詔祭
- 十五日 献詠祭(兼題 年の瀬)
- 煤払い
- 三十一日 大祓式
- 除夜祭



大湯祭 神饌 百味膳



抜穂神事 神饌

氷川神社の神楽 ④

神楽師が担う役割

神楽とは祭りに際して神を迎え、その神前で奉納される芸能です。神楽師は神楽を演じるだけではなく、時には様々な役を担います。当社にはありませんが、神輿渡御の先導を猿田彦命が行う際には神楽師がその役となります。

本年も昨年に続き、節分撒豆式は中止となりますが、節分の鬼役も神楽師が担っています。諸説ありますが節分の鬼は、もともと方相氏(ほうさうし)が目に見えない鬼を追い払っていたものが、時代が下るにつれ方相氏自体が鬼とされてしまったものです。撒豆式では、袴を着て本殿で祈禱を受けた特別年男・年女が舞殿において豆を撒き、厄を祓います。最後の撒豆式が終わると、神楽師は鬼から福の神である大国様に代わり福を授けます。



秋の初穂を捧げてー新嘗祭あわせ講社大祭斎行ー



十一月二十三日午前九時より新嘗祭にあわせ敬神講社大祭を斎行致しました。講社とは同じ神仏を信仰する組織・団体の事で、講社大祭には各町内の総代など代表の方が参列し秋の初穂を捧げ祭典を行います。

一 祭典中には齋主さいしゅの祝詞奏上に続き、敬神講社の代表者である講長が祈願文を読み上げ、氷川の大神様に日頃お守り頂いている感謝を述べ更なる御神威の発揚と講員の健康と家業発展、国家安泰を祈ります。

稔りの秋には感謝を込めて、神様にその年の新穀を捧げますが、これを初穂といいます。神社に納める初穂料という言葉はここに由来します。

お初穂の言葉には「いただきます」の食前感謝、「ごちそうさま」の食後感謝など神様への感謝の誠心が、根底に息づいています。

新嘗祭 奉納御礼

(敬称略、順不同)

御米

島根氷川神社

島村功作

関口達衛

水のフォルム

清酒

藤野泰功

野菜果物

阿泉秀典

ワイン

秩父兔田ワイナリー



社頭往来

稲荷神社鳥居奉納奉告祭

十月五日午前十一時、稲荷神社にて鳥居の奉納を頂きました飛田和一様参列のもと、奉告祭を執り行いました。



戦艦武蔵顕彰祭

十月二十四日午後二時、戦艦武蔵顕彰祭を、戦艦武蔵顕彰会会長三原宏治氏を始め約三十名参列のもと執り行いました。



無双直伝英信流阿字会奉納演武

十月三十日、正式参拝の後、無双直伝英信流居合兵法阿字会井本忠昭阿司齋他会員による奉納演武が行われました。



武蔵菊花会奉納菊花展

十一月一日より十五日まで武蔵菊花会による第七十二回奉納菊花展が開催されました。楼門内外の廻廊や舞殿などに丹精込めて育てられた様々な菊、約四百八十鉢が展示されました。



敬神婦人会国旗小旗作り

十一月十日、敬神婦人会の会員約四十名により国旗の小旗作りが行われました。作成された八百本の小旗は一般財団法人日本文化興隆財団に送られ皇居での新年一般参賀等に活用されます。



七五三

七五三詣は本年も混雑を避けた分散傾向にありましたが、約一万組のご家族がお参りされました。皆様の健やかなる成長を祈念致します。



ベンチプレス福田選手来社

十一月二十五日世界ベンチプレス六十六キロ級チャンピオンの福田将志選手が来社されました。



神社と氏子総代 神宮大麻頒布式斎行

総代とは氏子または崇敬者のうちの代表的な役で、徳望厚い人物が選ばれ、神社の運営や祭礼などで神職に協力したり、氏子・崇敬者の便宜を図るなどの職務を行います。神職や巫女など神社の職員だけで、神社や祭礼を護持運営していく事は難しく、総代や氏子崇敬者の協力は欠かせない基盤であるといえます。  
例年、神宮(伊勢神宮の正式名称)では内宮神楽殿において大麻(たいまれ)頒布始祭(はなはらみ)が執り行われ、神社本庁及び各都道府県の神社庁を通じて全国の神社に送られます。

当社でも、十二月二日社務所にて氏子総代の皆様にお集まりを頂き、神宮大麻頒布式を執り行いました。

神宮のお札は神宮大麻と呼ばれ、大麻は「おおぬさ」とも読みお祓いに用いる祭具を意味しておりました。伊勢の御師と呼ばれた神職により頒布されていましたが、明治天皇の思召しにより神宮から各神社を通じて全国に頒布されるようになり、本年は百五十周年の節目の年にあたります。現在では氏子総代、世話人の皆様の協力を頂き各家庭に頒布されています。



酒造組合祈願祭

十二月三日午前十一時、境内の松尾神社前にて酒造組合祈願祭を齋行しました。

埼玉県酒造組合会長の(株)小山本家酒造代表取締役会長小山景市様、(株)小山本家酒造取締役理事社長小松崎功様、大瀧酒造(株)大瀧榮壽様、北西酒造(株)代表取締役社長北西隆一郎様等がご参列されました。



オリジナルフレーム切手奉納

十二月五日午前十時、オリジナルフレーム切手セット「武蔵

一宮 氷川神社」の贈呈式が行われました。写真は写真家の工藤裕之氏が撮影したもので、今号の表紙にも使用させて頂いております。こちらの切手セット

は十二月十日よりさいたま市内の郵便局など計八十局で販売開始、また十日のみ楼門内に郵便局員の方が販売所を開設致しました。

販売内容 一セット(フレーム切手シート・ポストカード三枚)販売価格 一八四〇円



武蔵菊花会表彰式

十二月十二日午後二時より呉竹荘にて奉納菊花展の表彰式が行われました。衆議院議員の牧原秀樹様、枝野幸男様など来賓として出席頂きました。

氷川神社宮司賞 七点

一、「南陽黄妙」 茂呂尚佑  
一、「瑞竜」 吉田勝美  
一、「聖光華宝」 佐藤昭次  
一、「黄虎」 鈴木 旭

一、「泉郷情熱」 籠島志弘  
一、「太平銀月」 土居志夫  
一、「富士の輝」 川鍋辰雄



おす払い

十二月十五日、献詠祭終了後に本殿や拝殿、楼門などのす払いを行いました。



古神札焼納祭

十二月十五日午前十一時、古

神札をお祓いし、古神札焼納祭を執り行いました。



書元会廻廊展示

十二月三十一日より一月五日まで書元会による書道 点の廻廊展示が行われました。小学三年生から中学三年生までの会員の作品で「こぶし」、「友だち」、「新しい朝」、「希望の光」、「大切な命」、「春告げ鳥」、「自然の宝庫」が兼題となりました。



献華会 奉納献華

十月

古流松藤会 岩波理豊

草月流 冲山草俊

桂古流 小林華侑

桂古流 高橋典花

草月流 竹下尚峰

正風流一光会 桐生一光

春草流 栗原春彩

十一月

古流松藤会 岩波理豊

桂古流 小林華侑

草月流 竹下尚峰

池坊 草谷智花

桂古流 高橋典花

正風流一光会 桐生一光

十二月

池坊 草谷智花

草月流 冲山草俊

桂古流 小林華侑

桂古流 高橋典花

草月流 竹下尚峰

正風流一光会 桐生一光

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様  
の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感  
謝申し上げます。  
(五十音順、敬称略)

- ・阿含宗埼玉道場
- ・大宮明るい社会づくりの会
- ・大宮北小学校
- ・大宮北中学校
- ・新宿調理士専門学校
- ・住友生命保険相互(株)
- ・高鼻二丁目友の会
- ・パーソルテンプスタッフ(株)
- ・(さいたま市)ジョブアシスト事業)
- ・氷川蛍の会
- ・みずほ証券株式会社大宮支店
- ・武蔵コーポレーション(株)



大宮北小・北中学校様



氷川蛍の会様



新宿調理士専門学校様

正式参拝及び諸会議

(敬称略)

十月 二日

國學院大學若木育成会  
神奈川県支部

三日

武蔵菊花会菊作り研修会  
株式会社アルシエ

十三日

ジェットワークス

十八日

観月雅楽演奏  
武楽座

二十一日

ミセスジャパン二〇二一  
埼玉選考会

二十四日

ポリオ根絶チャリティー  
クラシックカーラリー実  
行委員会

二十五日

一般財団法人日本学協会  
無双直伝英信流兵法阿字会

三十日

交通安全対策会議

十一月 一日

氷川参道部会  
株式会社ステンドグラス  
パロック

八日

武蔵菊花会表彰式事前打  
ち合わせ

九日

神奈川県神社庁相模原市  
氏子総代会

二十五日

亀ヶ池八幡宮宮司

十二月 二日

北足立支部役員会臨時総会  
氷川参道対策会議

三日

正月助勤説明会

五日

武蔵菊花会  
武蔵菊花会表彰式

十二日

日本郵船氷川丸船長  
立正佼成会大宮教会

十六日

立正佼成会大宮教会

二十四日

敬神講社区域に鎮座する氷川神社の分社

敬神講社区域の中にあり、春秋の講社祭に特別の御奉納を頂く氷川神社の分社を御紹介致します。

大谷氷川神社

鎮座地 さいたま市見沼区

大谷一四七二

由緒 創建年代は不詳だが、建武元年(一三三四)の「足利直義下知状(宇都宮文書)」に「大谷郷(上尾の大谷本郷とする説も有)」とある事から、この頃には当社より分霊が祀られていたと考えられる。本殿の周りには透塀が巡らされており、正面入口の唐破風屋根の神門には、竜・亀・唐獅子などの彫刻が施されている。また、参道入口の両部鳥居は当社より移築したもの。

当地の氏子区域には昭和二十一年に結成された七里敬神講社があり、例年四月七日の鎮花祭大祭にあわせ七里敬神講社大祭が行われている。七里とは大谷・膝子・東宮下・新堤・東門前・蓮沼・風渡野の七地区で始まった事に因む。



神門の彫刻



御祭神 素戔鳴尊

島根氷川神社

鎮座地 さいたま市西区

島根四五六

由緒 弘仁二年(八一二)に足立太郎秀盛が自らの領地に氷川神社を勧請した。「新編武蔵風土記稿」によれば 氷川社 村内及び側海斗・三条町・在家・塚本等八カ村の総鎮守とある。現在の御祭神は素戔鳴尊と建御名方命の二座。応永二十年(一四一三年)の足利義持寄進状(岩井文書)に「足立郡嶋根村」と見え、当村のうち六反の地が武蔵一宮氷川神社に寄進されており、中世からの結びつきがわかる。現在でも十一月二十三日の新嘗祭には当地から、その年の初穂が供えられる。境内の狛犬には東角井楯臣宮司の揮毫がある。



狛犬



御祭神 素戔鳴尊 建御名方命

# 地域の氏神社紹介②

氷川神社は武蔵国の一の宮として広く守護しておりますが、当社以外にも古くから「村の鎮守」、地域の氏神様として祀られている神社がいくつかあります。

## 櫛引氷川神社

鎮座地

さいたま市大宮区

由緒

櫛引町一―一六五三  
応永五年(一三九八)創建。明治期に日進神社に合祀も、昭和五十一年氏子の熱望により合祀解除、櫛引氷川神社と定めた。境内の筆子碑は澁谷勝平のもので、平田篤胤の門人藤原直彦に師事し平正彦と号した。



御祭神 素戔嗚尊 奇稻田姫尊

## 大成八幡神社

鎮座地

さいたま市大宮区

由緒

大成町一―二〇三  
創建は明徳年間(二三九〇―九四)で、後に当地を領した金子駿河守が八幡神を勧請と伝える。明治期に日進神社に合祀も、昭和二十七年に氏子の熱望により合祀解除。百貫神輿と深川流囃子が伝承されている。



御祭神 誉田別命

## 土呂神明神社

鎮座地

さいたま市北区

由緒

土呂町二―八三一  
創建年代不詳。明治十三年、本殿改築、拜殿新築。かつては「土呂の大杉」と呼ばれた県の天然記念物指定を受けた御神木があり、源義経が蝦夷地に渡る以前、休憩し地面に挿した杉の筥が大木になったとも、源頼義・義家親子が挿したとも伝える。



御祭神 天照大御神

## 日進神社

鎮座地

さいたま市北区

由緒

日進町一―一九四  
中世の創建。本殿は一間社流造。明治四十年、日進村に鎮座する四十六社を合祀、社号を氷川社から日進神社に改称。「餅搗き踊り」は、江戸期に往來の大名や武士の接待を兼ね行った餅搗きが芸能化したもの。



御祭神 素戔嗚尊

新規・季節の授与品の御案内

<b>咲守り</b>	<b>参道朱印帳</b>	<b>アルディージャ 朱印帳</b>
(3月20日～)	(4月1日～1月につき100冊限定 [朱印込] 2,000円)	[朱印帳のみ] 1,500円 [朱印込] 2,000円
1,000円		

一月十六日から二月末日の恒例祭・恒例行事

一月二十四日 九時～防災訓練  
 二月 一日 月次祭  
 三日 節分祭  
 ※午後の撒豆式及び福引中止  
 七日 的の神事  
 十日 初午祭  
 十一日 紀元祭  
 十五日 献詠祭  
 十七日 祈年祭  
 二十三日 天長祭

## 新春ご見学ご相談会

1月29日、30日

## 婚礼展示会 模擬挙式

2月27日

詳細や申込み方法などはホームページを御参照願います

第二十一号は四月十五日発行予定です

大湯祭 弁天鳥

新春奉拝 令和壬寅

大湯祭特別紙朱印(金・銀)は11月30日から、正月特別紙朱印は1月1日から授与開始致しました。春の特別紙朱印の他、最新のお知らせはホームページ、SNSでお知らせ致します。

ホームページ

Instagram

Twitter